



40代のライフプラン

— ライフコースが固定化する年代



豊田 真弓

ファイナンシャル・プランナー
住宅ローンアドバイザー、相続診断士

【とよだ・まゆみ】

F P ラウンジ代表。マネー誌・女性誌等のライターを経て1994年より独立系F P。「家計の永続性」をテーマに、個人相談や講演会、雑誌や新聞、サイトへの寄稿や監修などを行っている。6カ月かけて家計を見直す「家計ブートキャンプ」も好評。『50代家計見直し術』（実務教育出版社）、『住宅ローンは55歳までに返しなさい!』（アニモ出版）など著書多数。座右の銘は「笑う門には福もお金もやってくる」。

今回の「年代別で考えるライフプラン」は40代を取り上げます。

20代、30代はライフコースを「選択」する年代であり、結婚、出産、住宅取得等、人生の分岐点となるライフイベントが集中する年代ともいえます。ちなみに、国立社会保障・人口問題研究所のデータ（2015年）では**40代の未婚率は40〜44歳で男性30・0%、女性19・3%、45〜49歳で男性25・9%、女性16・1%となっています。**

人生が90〜95年というなら、**40代はほぼ折り返し地点。**キャリアや給与水準、世帯の形（シングルか既婚か、子どもの有無など）、住宅取得等自分の人生の形もほぼ固まり、**ライフコースが固定化する時期**といえます。もちろん、結婚（再婚含む）、出産、住宅取得などのイベントが40代以降になる人も一部いるため、あくまでも全体的な傾向です。

子どもがいれば教育費の負担が重くなる

年代でもあり、一方で、そろそろ気になりますのが、後期高齢期にさしかかる親の健康・介護問題です。こうしたことから、「**責任世代**」という言葉がずしりと重く感じる年代でもあるといえるでしょう。

40代の生活設計と住まい

まずは、40代の生活設計・住まいに関するデータを見てみましょう【図表1】。以後、データは金融広報中央委員会「平成28年（2016年）家計の金融行動に関する世帯調査」を参照しています。

世帯年収（手取り）ですが、2人以上世帯（既婚者等）は平均543万円、中央値500万円で、シングルの場合は平均345万円、中央値280万円。中央値とは、少ない順に並べていったちょうど中間になる数値を指します。

2人以上世帯の配偶者の就業で見ると、

「フルタイム」22・8%、「パートタイム」42・4%、「働いていない」25・2%で、「パートタイム」が最も高くなっています。20代、30代では、配偶者は「働いていない」が最も多かった（20代44・9%、30代35・5%）のに比べ、40代になると子育てがひと段落して、パートに出る妻が増えていることが確認できます。

生活設計については、シングルよりも2人以上世帯の方が「立てている」「今後立てるつもり」とともに割合が高くなっています。子どもがいる場合、高等教育進学などを控えている分、生活設計を考える機会が多いのではないかと推測します。

生活設計を立てている期間については、シングル世帯の方が長めの割合が高く、資金計画についても、シングルの方が立てている割合が高くなっています。40代でシングルの場合、将来への危機感が高まるからでしょう。

住まいについては、**持ち家率は2人以上**

【図表1】40代の生活設計・住まい

	2人以上世帯（世帯主 40代）	シングル世帯
世帯収入（手取り）	平均 543 万円、中央値 500 万円	平均 345 万円、中央値 280 万円
配偶者の就業	パートタイム 42.4% 働いていない 25.2% フルタイム 22.8 %	—
生活設計※は？	今後立てるつもり 53.8% 立てている 32.5%	今後立てるつもり 41.6% 立てている 21.8%
生活設計の期間は？	3～5年先まで 33.0% 10年先まで 30.7% 20年より先まで 18.3% 20年先まで 10.6%	10年先まで 26.2% 3～5年先まで 23.8% 20年より先まで 23.8% 20年先まで 15.5%
資金計画※は？	立てている 39.9% 今後立てるつもり 50.0%	立てている 57.1% 今後立てるつもり 35.7%
持ち家率	63.5% (購入 57.2%、相続・贈与 6.3%)	25.5% (購入 16.6%、相続・贈与 8.8%)
非持ち家の人の住まいは？	賃貸マンション・アパート、借家 20.4% 親や親族の家 8.6% 公団公営の賃貸アパート 2.8% 社宅等 1.8%	賃貸マンション・アパート、借家 61.0% 公団公営の賃貸アパート 9.6% 親や親族の家 2.6% 社宅等 1.3%
非持ち家世帯でマイホーム取得予定は？	目下考えていない 33.6% 将来も取得する考えはない 23.9% 相続等によるので時期不明 18.1% 3年以内 8.8% 10年以内 7.6% 5年以内 2.9% 20年以内 2.5%	将来も取得する考えはない 53.3% 目下考えていない 24.7% 相続等によるので時期不明 6.6% 3年以内 6.3% 10年以内 4.5% 5年以内 2.8% 20年以内 1.0%
住宅取得の必要資金は？	3073 万円 (うち自己資金 907 万円)	2723 万円 (うち自己資金 1579 万円)
老後は心配？	非常に心配 50.8% 多少心配 40.8%	非常に心配 60.5% 多少心配 29.1%
老後が心配な理由（複数回答）	十分な金融資産がない 75.3% 年金や保険が十分でない 70.1% 生活にゆとりがなく貯蓄できない 49.4%	十分な金融資産がない 73.3% 年金や保険が十分でない 48.7% 生活にゆとりがなく貯蓄できない 33.9%

出典：金融広報中央委員会「平成 28 年（2016 年）家計の金融行動に関する世論調査」

※ 生活設計＝住宅購入や結婚、出産等ライフイベントも含めたプラン、資金計画＝将来必要となる資金を貯める計画

世帯は 63・5%、シングルも 25・5%と、**30代までに比べ増加しています**（30代の持ち家率は、2人以上世帯 47・9%、シングル世帯 11・9%）。非持ち家の 40代で、「親や親族の家」に住んでいるのは、2人以上世帯 8・6%、シングル 2・6%と低く、やはり賃貸マンション・アパート、借家を中心です。非持ち家世帯でマイホーム取得を「考えていない」と「取得する考えはない」を合わせると、2人以上世帯で 57・5%、シン

グル世帯で 78・0%。取得予定の人の取得時期は「3年以内」と「10年以内」が多いようです。住宅取得の予算は、2人以上世帯が 3073 万円（うち自己資金 907 万円）、シングル世帯は 2723 万円（うち自己資金 1579 万円）でした。老後について



ては、2人以上世帯・シングル世帯とも約 9割が「心配」と回答。心配な理由（複数回答）は、2人以上世帯・シングル世帯とも「十分な金融資産がない」がトップで、「年金や保険が十分でない」「生活にゆとりがなく貯蓄できない」の順になっています。

なお、平均出生時年齢（厚生労働省「2017年 我が国の人口動態」）によると、女性の年齢で、第1子 30・7歳、第2子 32・5歳、第3子以上 33・5歳ですので、40代は、小学生から高校生の子どもがいる状態と考えられます。家計の中で、教育費負担がじわじわと増える年代といえます。

40代の貯蓄・金融資産

続いて、40代の貯蓄や金融資産のデータを見てみましょう【図表2】。

まず、手取り年収からの貯蓄割合（金融資産がある世帯）は、2人以上世帯が平均 9・0%に対し、シングル世帯は平均 15・0%。30代よりそれぞれ 2%、4%下がっています。子育てに追われる2人以上世帯が下がり、しかもシングル世帯より低いのは当然といえますが、40代シングルの貯蓄割合が4%も下がるのはナゾです。

金融資産を保有している割合は、2人以上世帯が 65・0%、シングル世帯が 49・9%で、いずれも30代に比べて微減しています。反対に見ると、40代で貯蓄がない世帯が、2人以上世帯で 35・0%、シングル世帯で

50・1%いることがわかります。

金融資産の目標額は、2人以上世帯が平均1795万円であるのに対し、シングル世帯が平均4182万円。中央値がいずれも1000万円であることから、40代シングルの一部は、かなり高い目標を設定しているようです。これに対し、実際の保有額（金融資産がある世帯）は、2人以上世帯で平均939万円、中央値602万円、シングル世帯で平均1594万円、中央値789万円。**金融資産保有額の平均額、中央値と**

【図表2】40代の貯蓄・金融資産

世帯区分	2人以上世帯（世帯主40代）	シングル世帯
手取り年収からの貯蓄割合※	平均9.0%	平均15.0%
金融資産を保有している割合	65.0%	49.9%
金融資産目標額	平均1795万円 中央値1000万円	平均4182万円 中央値1000万円
金融資産保有額※	平均939万円 中央値602万円	平均1594万円 中央値789万円
金融資産の内訳※	939万円＝預金472、生命保険226、株式71、個人年金保険63、財形貯蓄48、投資信託28、他	1594万円＝預金815、株式343、投資信託139、生命保険82、債券76、個人年金保険47、財形貯蓄45、他
NISAの平均額	111万円	126万円
個人型確定拠出年金の平均額	146万円	119万円
外貨建て金融商品の平均額	157万円	567万円
金融資産の保有目的※ （複数回答、上位）	子どもの教育資金70.6% 老後の生活資金56.0% 病気や不時の災害への備え51.8% 保有していれば安心19.7% 耐久消費財の購入資金18.1% 旅行・レジャーの資金11.7%	老後の生活資金46.4% 病気や不時の災害への備え44.8% 保有していれば安心27.6% 旅行・レジャーの資金12.5% 住宅の取得または増改築10.4% 耐久消費財の購入資金10.4%

出典：金融広報中央委員会「平成28年（2016年）家計の金融行動に関する世論調査」
※金融資産保有世帯

もにシングル世帯の方が高くなっています。

保有している金融資産の内訳では、いずれの世帯もほぼ半分が預金です。次に多いのが2人以上世帯では生命保険で、「保険で貯蓄」の傾向が強いのにに対し、シングル世帯では株や投資信託が上位にあり、20代、30代と同様に積極的にリスクを取っている傾向があります。

NISA（少額投資非課税制度）や個人型確定拠出年金、外貨建て金融商品の利用は2人以上世帯でもシングル世帯でも見ら

れます。シングルの場合、他の年代同様、外貨建て金融商品が多くなっています。

金融資産を保有する目的（複数回答）については、2人以上世帯とシングル世帯では明確に違いが現れています。2人以上世帯のトップは「子どもの教育資金」で、2位が「老後の生活資金」、3位が「病気や不時の災害への備え」となっています。一方、シングルでは「老後の生活資金」「病気や不時の災害への備え」が1位、2位で、さらに目的はないが「保有していれば安心」が3位になっています。**40代は、老後資金に備える意識が強まる年代といえます。**

40代のお金の使い方と借入金

40代のお金の使い方や借入の状況も見えておきましょう【図表3】。

日常的な支払い方法（複数回答）としては、「1000円超～5000円」の小口だと現金の利用が2人以上世帯で78・7%、シングル世帯で66・8%と最も多くなっています。クレジットカードや電子マネー・デビットカードの利用も少なくはありませんが、シングルの方が多めです。「1万円超～5万円」になると、2人以上世帯、シングルともにクレジットカードの利用が現金を上回ります。

なお、借入金があるのは2人以上世帯が60・2%、シングル世帯は17・4%。借入金残高（借入れがある世帯）は、2人以上世帯で平均1562万円、中央値1500

【図表4】 子どもの学習費総額と内訳

単位：円

	幼稚園		小学校		中学校		高校（全日制）	
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立
学校教育費	119,175	319,619	59,228	885,639	128,964	1,022,397	242,692	740,144
学校給食費	19,382	36,836	43,176	46,089	38,422	4,154	—	—
学校外活動費	83,707	141,553	219,304	604,061	314,455	312,072	167,287	255,151
年額	222,264	498,008	321,708	1,535,789	481,841	1,338,623	409,979	995,295
総額	666,792	1,494,024	1,930,248	9,214,734	1,445,523	4,015,869	1,229,937	2,985,885

【図表3】 40代のお金の使い方と借入金

出典：文部科学省「子どもの学習費調査（平成26年）」

世帯区分	2人以上世帯（世帯主 40代）	シングル世帯
日常的な支払い方法（複数回答）	【1000円超～5000円】 現金 78.7% クレジットカード 27.0% 電子マネー・デビットカード 17.1% 【1万円超～5万円】 クレジットカード 66.5% 現金 47.4% 電子マネー・デビットカード 4.8%	【1000円超～5000円】 現金 66.8% クレジットカード 43.6% 電子マネー・デビットカード 25.2% 【1万円超～5万円】 クレジットカード 66.2% 現金 42.6% 電子マネー・デビットカード 8.3%
公共料金等の決済手段	口座振替 75.3% クレジット・カード 43.2% 現金 27.3%	クレジット・カード 52.2% 口座振替 46.2% 現金 30.1%
借入金がある	60.2%	17.4%
借入金残高 （借入金がある世帯）	平均 1562 万円 中央値 1500 万円	平均 637 万円 中央値 170 万円
借入れの目的 （複数回答）	住宅の取得や増改築 75.0% 耐久消費財の購入資金 20.8% 子どもの教育資金等 9.9% 日常生活資金 7.9% その他 6.2% 旅行・レジャー資金 2.2% 不動産等の実物資産への投資資金 2.2%	日常生活資金 31.3% 住宅の取得や増改築 23.9% 旅行・レジャー資金 20.9% 耐久消費財の購入資金 13.4% 医療費や災害復旧資金 4.5% 不動産等の実物資産への投資資金 3.0% その他 37.3%

出典：金融広報中央委員会「平成 28 年（2016 年）家計の金融行動に関する世論調査」



万円、シングル世帯で平均637万円、中央値170万円となっています。借入金がある割合、借入残高は2人以上世帯の方がシングル世帯より大きくなっています。

借入れの目的は、2人以上世帯では「住宅の取得や増改築」がダントツで、次が「耐久消費財の購入資金」です。前述のように、2人以上世帯が自力で持ち家を購入する割合が57・2%と高いことから裏づけられます。しかし、シングルの方は、「日常の生

「生活資金」31・3%と、「住宅の取得や増改築」を上回ります。つまり、**2人以上世帯は住宅ローンや耐久消費財の分割払いなどが多いのに対し、シングルで借入れをしている人の中には生活費の不足分等を借金で補っている人が多い**ことがわかります。40代シングルで金融資産がない世帯は50・1%と、前述しましたが、これを併せて考えると、現在ぎりぎりの収支で何か不測の事態があれば生活費も借入れに頼りがちなのかもしれません。

40代のキャッシュフロー表

以上見てきた40代のデータに基づいて考えると、やはり40代はライフコースが固定される年代といえるでしょう。結婚、出産、住宅取得などのイベントは20代、30代に集中し、その選択の結果と向き合う年代でもあります。

40代の平均データ等から、2人以上世帯とシングル世帯のキャッシュフローを作りました。いずれも30代の続きのイメージです。

次ページの【図表5・1】は30代で結婚して誕生した子が中学生と高校生になり、本格的に教育費がかかり始めます【図表4】。ずっと正社員の共働きの、30代で購入したマンションがあり、貯蓄は1000万円をキープ。老後のためiDeCo（個人型確定拠出年金）に夫婦とも月2万円ずつ加入します。

【図表5・2】は妻がパートタイムのパタ

【図表5－1】 40代・2人以上世帯・ずっと正社員の共働きの場合のキャッシュフロー例

年度			2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
年 齢	本人		41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
	配偶者		39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
	第1子		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
	第2子		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
ライフイベント			第2子公立 小学校				第1子公立 中学校	住宅ロー ン繰上返 済200万円	第2子公立 中学校	第1子私立 高校		第2子私立 高校	
計 画	仕事関係		夫：スキルアップ（教育訓練給付活用）、妻：スキルアップ（教育訓練給付活用）										
	趣味		家族で年2回旅行 → → → → → → → → → → → →										
	健康づくり		夫婦：ジムへ → → → → → → → → → → → →										
収 支 バ ラ ン ス	収 入	夫の給与（手取り）	0.5%	494.0	496.5	499.0	501.4	504.0	506.5	509.0	511.6	514.1	516.7
		妻の給与（手取り）	0.5%	312.0	313.6	315.1	316.7	318.3	319.9	321.5	323.1	324.7	326.3
		住宅ローン控除		19.8	18.9	18.0	17.1	16.1					
		児童手当		24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	12.0
		合計(A)		849.8	852.9	856.1	859.3	862.3	850.4	854.5	858.6	862.8	855.0
	支 出	日常生活費(住宅・教育・保険以外)	0.5%	353.0	354.8	356.5	358.3	360.1	361.9	363.7	365.5	367.4	369.2
		住宅ローン	0.0%	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	320.0	120.0	120.0	120.0	120.0
		固定資産税、管理費・修繕積立金	0.0%	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0
		教育関係費*1(学校教育費、塾、習い事等)	0.0%	124.0	124.0	124.0	124.0	140.0	140.0	136.0	129.0	129.0	122.0
		生命保険料等	0.0%	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
		iDeCo積立(月2万円×2人)	0.0%	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0	48.0
		その他(特別支出・レジャー費等)	0.0%	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
		合計(B)		804.0	805.8	807.5	809.3	827.1	1028.9	826.7	821.5	823.4	818.2
		年間収支(A－B)		45.8	47.2	48.5	49.9	35.2	-178.6	27.8	37.1	39.4	36.8
	預貯金合計(前年末 1050万円)		0.5%	1,101.1	1,153.7	1,208.0	1,264.0	1,305.5	1,133.5	1,166.9	1,209.9	1,255.4	1,298.4
iDeCo残高		2.0%	48.0	97.0	146.9	197.8	249.8	302.8	356.8	412.0	468.2	525.6	

※1 塾代等として1人につき年30万円をプラス

住宅ローンの繰り上げ返済

夫婦2万円ずつiDeCo積立

【図表5－2】 40代・2人以上世帯・妻がパートタイムの場合のキャッシュフロー例

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026		
年齢	本人	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50		
	配偶者	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48		
	第1子	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
	第2子	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
ライフイベント		第2子公立 小学校				第1子公立 中学校		第2子公立 中学校	第1子私立 高校		第2子私立 高校		
計画	仕事関係	夫：スキルアップ（教育訓練給付活用）、妻：スキルアップ（教育訓練給付活用）											
	趣味	家族で年1回旅行 → → → → → → → → → → → →											
	健康づくり	2駅歩く・きちんと睡眠をとる → → → → → → → → → → → →											
収 支 バ ラ ン ス	収入	夫の給与（手取り）	0.5%	494.0	496.5	499.0	501.4	504.0	506.5	509.0	511.6	514.1	516.7
		妻の給与（手取り）	0.0%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		住宅ローン控除		18.2	17.4	16.6	15.7	14.8					
		児童手当		24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	12.0
		合計(A)		636.2	637.9	639.6	641.1	642.8	630.5	633.0	635.6	638.1	628.7
	支出	日常生活費(住宅・教育・保険以外)	0.5%	252.3	253.6	254.8	256.1	257.4	258.7	260.0	261.3	262.6	263.9
		住宅ローン	0.0%	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4
		固定資産税、管理費・修繕積立金	0.0%	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0	34.0
		教育関係費*2(学校教育費、塾、習い事等)	0.0%	104.0	104.0	104.0	104.0	120.0	120.0	136.0	129.0	129.0	122.0
		生命保険料等	0.0%	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
		iDeCo積立(月2万円×1人)	0.0%	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0
		その他(特別支出・レジャー費等)	0.0%	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
		合計(B)		619.7	621.0	622.2	623.5	640.8	642.1	659.4	653.7	655.0	649.3
		年間収支(A－B)		16.5	16.9	17.3	17.6	2.0	-11.6	-26.4	-18.1	-16.9	-20.6
		預貯金合計(前年末 457万円)	0.5%	475.8	495.1	514.9	535.1	539.7	530.8	507.1	491.6	477.2	458.9
		iDeCo残高	2.0%	24.0	48.5	73.4	98.9	124.9	151.4	178.4	206.0	234.1	262.8

※2 塾代等として1人につき年20万円をプラス

※ 表示された数字の合計が合わない箇所もありますが、実際には小数点第2位以下も計算を行った後に、四捨五入表示をしているためご理解ください。

日常生活費や住宅ローン、教育関係費、その他は正社員の共働き世帯より少ない設定

第1子が中学進学2年目以降、しばらく年間収支は赤字が続く

【図表6】 40代・**シングル**の場合のキャッシュフロー例

年度			2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
年齢	本人		41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
ライフイベント			バイク購入 引越し				住宅購入		3200万円 + 諸費用 90 万円 [ローン 2300 万円、 25 年、金利 1.5%、 ボーナス払なし]			
計画	仕事関係		スキルアップ（教育訓練給付活用）									
	趣味		バイクツーリング、毎年海外旅行									
	健康づくり		週末ジムへ									
収 入 支 出 バ ラ ン ス	本人の給与（手取り）	0.5%	494.0	496.5	499.0	501.4	504.0	506.5	509.0	511.6	514.1	516.7
	住宅ローン控除 *3						22.2	21.4	20.7	19.8	19.0	18.2
	合計(A)		494.0	496.5	499.0	501.4	526.2	527.9	529.7	531.4	533.1	534.9
	日常生活費(住宅・保険以外)	0.5%	263.0	264.3	265.6	267.0	268.3	269.6	271.0	272.3	273.7	275.1
	家賃（2年更新、更新料1カ月）	0.0%	130.0	120.0	130.0	120.0						
	住宅購入頭金・諸費用等						790.0					
	住宅ローン	0.0%					110.4	110.4	110.4	110.4	110.4	110.4
	生命保険料等	0.0%	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
	iDeCo積立(月2万円×1人)	0.0%	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0
	その他(特別支出・レジャー費等)	0.0%	220.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
合計(B)			647.0	498.3	509.6	501.0	1282.7	494.0	495.4	496.7	498.1	499.5
年間収支(A-B)			-153.0	-1.8	-10.7	0.5	-756.5	33.8	34.3	34.6	35.0	35.4
預貯金合計(前年末 1128万円)		1.0%	986.3	994.3	993.6	1,004.0	257.5	293.9	331.1	369.1	407.7	447.2
iDeCo残高		2.0%	24.0	48.5	73.4	98.9	124.9	151.4	178.4	206.0	234.1	262.8

* 3 住宅ローン控除は10年間1%だったと仮定

すが、自殺を除けば、3大成人病と不慮の事故が上位を占めます。上位に自殺が入っていることから、メンタルケアも大事です。

なお、**持病ができる前に、20代、30代で加入した保険を一度点検したいもの**。3大成人病や病気になつて働けなくなつたときの就業不能保険等、ニーズに合わせて見直し

40代は自分自身の健康にも気を付けなくてはなりません。がんや脳血管疾患、心疾患など生活習慣病の罹患率も上がり始めます。

40代もリスクマネジメントが大事

ーン。i De Coに加入するのは節税効果と家計のバランスから夫のみとなりました。

【図表6】は40代シングルのキャッシュフローです。1人暮らしのため自由になるお金も多く、レジャーなどにもお金を使っています。元々好きだったバイクに乗り始め、駐輪場のあるマンションに引っ越します。

40代シングルの持ち家率は25%程度ですが、貯蓄がある世帯（40代は5割強）のみが家を買うと仮定するなら、半数程度が買っていることになります。そのため、結婚しなかったときの保険として45歳のときに住宅を購入。シングルは運用が得意な傾向があるので、貯蓄残高の運用利回りも1%にしています。



【図表7】 40代の死因

	男		女	
	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳
第 1 位	自殺	悪性新生物	悪性新生物	悪性新生物
第 2 位	悪性新生物	自殺	自殺	自殺
第 3 位	心疾患	心疾患	心疾患	脳血管疾患
第 4 位	脳血管疾患	脳血管疾患	脳血管疾患	心疾患
第 5 位	不慮の事故	不慮の事故	不慮の事故	不慮の事故

出典：厚生労働省「平成 27 年人口動態統計」

ましよう。

40代のリスクマネジメントには、他にも教育資金や老後資金の準備があります。教育資金への備えは、できれば**中学卒業までに終えておきたいものです**。児童手当を貯めれば200万円弱になるため、それに月5000〜1万円をプラスして貯め、さらに子どものお祝いやお盆玉・お年玉を貯めておくことで400万〜500万円も目指せます。サボらず継続しましょう。

また、**老後資金準備も確実に始めたいもの**。iDeCo、または2018年から始まる投資信託の積立を中心とした「つみたてNISA」（年間40万円まで）、あるいは両方を併用するといでしょう。「つみたてNISA」は教育資金用にも利用できます。